

◎ 「七福神に学ぶボランティアのこころ」に参加して

コロナの前は、毎年、先進地視察研修会として社協のバスをお借りして、県内はじめ愛知、岐阜まで出かけて学んできましたが、今回は社協の2階大会議室に、講師として臨済宗東福寺派大泉寺（京都）の住職である衣斐弘行氏をお招きして、「七福神に学ぶボランティアのこころ」という演題で講演を頂きました。13の団体及び個人の総数32名が参加しました。

七福神は中国、インド、日本出身の神様で、一つの船に乗っておられ、皆様異形の姿をしておられますがそれゆえに邪気を祓い福をもたらして頂くという信仰が室町時代より今日まで伝えられてきました。障がいのある方が苦を負って頂いているから自分が楽をさせて頂いているという感謝の心が日本の古来より息づいてきたのです。

「忘己利他」の遺伝子が人間には埋め込まれており、更には動物にもあるということを実話をあげて話されました。

「慈悲喜捨」は、まさにボランティアの4原則に合致するもので、これからも活動する時、常に「これでよかったのか？」と反省しながら歩みたいと心に誓いました。（研修部会 吉原勝範記）



～ひとりひとりが主人公

想いを届ける芸術祭～

（広報部会 藤田礼子記）

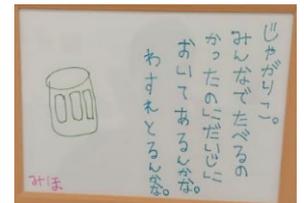
「あったかい、すごい、伝わったよ 想い」

昨年末の12/23・24に四日市市文化会館にて行われていた令和4年度三重県障がい者芸術文化祭作品展を觀賞。

絵画や工芸や俳句など500点以上の作品の中には、素晴らしい受賞作品がありましたが、私にはどれもこれも優劣つけ難いように思えました。

近い将来、健常者と障がい者の分け隔てなく【三重県芸術文化祭】として開催されること願っています。

1番お気に入り作品・・・『じゃがりこ。みんなでたべるの かったのにだいに おいてあるんかな。 わすれとるんかな。』



◎ 「桜の森公園防災研修会」に参加して

昨年12月4日（日）に桜の森公園にて「学ぼう鈴鹿の防災」をテーマに防災視察研修会を実施しました。新型コロナウイルス感染症の影響を受け、3年ぶりの防災研修会となりましたが、お天気にも恵まれ23名のメンバーが参加されました。



同行をお願いした鈴鹿市防災危機管理課の方からの施設案内や防災講話を皆さん、真剣な表情で聞いておられました。

平素は親子連れやマラソン人で賑わう市民公園ですが、災害時にはマンホールトイレ・煮炊き用のかまど・仮設テントやヘリポートなど防災機能を備えた避難場所となります。長期滞在は出来ませんが、多くの方が一時的に避難できる貴重な空間かなと実感しました。

参加者から“こういった防災機能が各町内にあればいいね”という声があり、暮らしと防災が一步近づいたかなという印象を持ちました。（防災部会 藤井末邦記）

♡ ボランティア活動紹介 ♡ 白子高等学校文化教養（吹奏楽）コース ♡



伝統ある白子高校吹奏楽部をベースに約20年前に設立されました。授業において、吹奏楽、室内楽、音楽理論などの音楽の専門科目に取り組んでいます。昨年度の人事異動でスタッフが入れ替わり、これまでの吹奏楽コース、吹奏楽部の活動を精査していく中で、課題として、①吹奏楽コースの成果発表の場の充実。②地域の方々との関わりについて、これまで以上に身近に音楽を聴いていただく。を挙げました。

そして、本年度より授業の実習として、3回、白子地区の皆様へ音楽を届けることが出来ました。参加した生徒にとってお客様との距離が近く、演奏に対する反応がわかりやすく、音楽をする上で重要な、演奏者と観客の関係性をより実感することが出来、貴重な実習の機会となっています。授業中に行うため、学校周辺でしか実施できませんが、今後も継続して活動を続けていきたいと考えています。



令和4年度 第28回「鈴鹿市ボランティアの集い」開催しました！！

みんなで笑顔になろう ～コロナ禍でのボランティア活動～
2月26日（日）コロナ禍で3年ぶりに100名の来場をいただき、「集い」を開催しました。中止の間も練習を重ねていた披露・上演・演技ボランティアの皆様へ活動の一環を披露していただき、「集い」開催の主旨「ボランティア間の相互交流・情報交換」を通し、顔の見える関係づくりに努め、会場からのアンコールに応じて和やかに演者と会場が一体となり、無事第29回へとバトンタッチできたのではと思います。

なお、当日会場ではトルコ・シリア大地震救援金も募りました。 (運営委員一同)



ハピレレ

モニカ♪モニカ

太陽の会

ハーモニカ・奏

たんぽぽハーモニ



編集後記

会場がパツと明るくなり、仲間の笑顔があちら、こちらで輝いていました。コロナ禍で久しぶりに開催できた、鈴鹿市手話サークルとちの実3グループの交流会です。みんなが楽しそうに手話を繰り出している様子、これは手話サークルならではの光景です。性別も年齢も地域も職業も関係なく、この場では手話という言葉を通じて絆を深めています。楽しい反面、この光景が私の地域にも、あなたの職場にも広がったら嬉しいなあと思います。最近メディアで手話を取り上げられる機会が増え、サークル入会の問い合わせも増えました。1人でも多くの方が手話を通して、聞こえない人たちやその暮らしにも関心を持って頂けるように学習の内容も工夫しています。

まずは、『つながる！ひろがる！鈴鹿のふくし ～ボランティア～』で動画に
参加した手話サークルの様子をぜひご覧ください。



当日取材していただいた撮影班、社協の担当のみなさんにも御礼申し上げます。
ありがとうございました。

(鈴鹿市手話サークル とちの実 岡野美也子)